

3. 在外研究活動報告

アメリカの学校保健とスクールナース

藤田 和也

1. 滞在目的・期間・研究機関

アメリカ合衆国のスクールナース制度と仕事の実態および保健教育の研究動向をつかむ目的で、1990年4月から1992年3月にかけての2年間、次の機関に滞在し、研究調査および資料収集を行ってきた。

- UCSF, School of Nursing (カリフォルニア大学サンフランシスコ校 看護学部) で Post-doctoral Scholar として (1990.4~12)
- UCB, School of Education (カリフォルニア大学バークリー 校教育学部) で Visiting Scholar として (1991.2~1992.3)

UCSFでは、看護学の一分野の主任教授を勤める Dr. Oda のマンツーマンのゼミ (2週に1回) で、アメリカのスクールナースの制度や実情について Lecture をうけると共に、彼女のアドバイスを受けながらスクールナース (以下SNと略す) 調査の調査用紙を作成した。合わせて、UCSFの図書館で School of Nursing と Health Education 関係の文献・資料を収集。なお、最初の3ヵ月間はこれらと並行して英語学校へ通う。

UCBでは、School of Education の学部と大学院の講義を聴講するとともに、UCBの図書館でSNや保健教育関係の古い文献を探索・コピーする。この期間は、主として後述する学校訪問とインタビュー調査に重きを置いた。

2. 調査活動

スクールナースの仕事の実態をつかむために、滞在中に次の二つの調査をてがけた。

① アンケート調査 (1990.12~1991.4)

Dr. Oda からのアドバイスを受けて作成した調査用紙 (SNの仕事と意識に関する質問25項目) を用いて、11州27学区のSNを対象に調査し、239名から回答を得た。

同時に、SN調査の調査用紙を日本の養護教

諭向けに翻訳して、3都県8市区の養護教諭を対象に調査し、338名から回答を得た。

② インタビュー調査 (1990.11~1991.11)

滞在6ヵ月余りを経過して、ようやく学校を訪問して直接インタビューしてみようという気持ちの余裕と勇気が少しばかり出てきたので、かねてから考えていたSN対象のインタビュー調査にとりかかるとにした。最初、滞在地のバークリーとその周辺の市の学校から始め、最終的には6州 (California, Colorado, Pennsylvania, Maryland, Washington, Wisconsin) 13学区42校を訪問し、36名のSNにインタビューできた。

同時に、これらの州や学区の学校保健課長や指導主事層14人にもインタビューができた。

3. 学会および研究会参加

滞在期間中に参加した学会および研究会は以下のとおりである。学会参加では、研究動向をつかむことと研究者とのコンタクトをとることにねらいを置いた。研究集会では、スクールナースや保健教育関係者の実践状況や関連情報を入手することをねらった。

<学会>

- 1990.10.17~21 American School Health Association 64th Annual Convention
Long Beach, California

この学会参加では大きな収穫があった。SN関係者と意識的に接触し、後のSN調査とインタビュー調査はこの接触で足掛かりがつかめた。

- 1991.4.3~7 American Alliance for Health, Physical Education, Recreation, and Dance, 1991 National Convention
San Francisco, California

日本の体育学会に相当する学会。ここでは保健教育の研究動向の一端がつかめた。

○1991.10.16～20 (前出のASHA) 65th Annual Convention Deaborn, Michigan
顔見知りの研究者とできる限り意見交換をすることに努めた。

○1991.11.10～14 American Public Health Association 119th Annual Meeting Atlanta, Georgia
全米の公衆衛生学会。参加者が1万人を越える大規模な集会。閉会集会の全体シンポジウムはエイズがテーマであった。

<研究集会>

○1990.11.11～16 AIDS Education For Youth Project San Francisco, California
エイズ教育振興のための指導者研修会

○1991.6.25～28 National Association of School Nurses 23rd Annual Convention Las Vegas, Nevada
全米のスクールナース協会の研究集会。年次大会長に招待されて参加。

○1991.11.16～17 California Association of School Health Educators Los Angeles, California
カリフォルニア州の保健教育関係者の研究合宿。参加者のほとんどは現場教師。

○1992.1.29～31 California School Nurses Organization Annual Convention San Jose, California
カリフォルニア州のスクールナース組織の年次集会

4. 研究交流・ネットワークづくり

今回は、アメリカの学校保健研究者と研究交流や情報交換の糸口を作ることも目的の一つであったため、機会ある毎に研究者との交流を試みた。

日本の養護教諭制度の概要や仕事の枠組み、実践事例などについて書いた私の2、3の論稿を英訳して小冊子にし、それを持って学会や研究会に参加して交流に努めた。こうして交流できた主な研究者は以下の人たちである。

<何度か接触して親交がもてた研究者>

○ Dr. Dorothy Oda (Univ. of California, San Francisco), ○ Dr. Judith Igo (Univ. of Colorado), ○ Dr. John Fodor (California State Univ. Northridge), ○ Dr. Keeta Lewis (School Nurse, California)

<情報提供を受け、意見交換ができた研究者>

○ Dr. Warren Boskin (California State Univ. San Diego), ○ Dr. Janice Anderson (Mankato State Univ. Minnesota), ○ Dr. Diane Allensworth (Kent State Univ. Ohio), ○ Dr. Janice Ozias (Supervisor of Nurses, Austin, Texas), ○ Dr. Beverly Bladley (Supervisor of Health Program, San Francisco School District)

5. 帰国後の報告活動

滞在中の調査や訪問インタビューおよび資料収集などによる成果の一部は、滞在中および帰国後の次の機会に報告した。

- ①「アメリカのスクールナース事情①、②」『保健室』No. 36, 37 1991.11, 1992.1
- ②「スクールナース訪問記」(12回連載)『健』1992.4～1993.3
- ③「アメリカ合衆国保健教育事情 エイズ教育は保健教育の最重要課題」『体育科教育』1992.6
- ④「アメリカのスクールナースと保健教育」『体育科教育』1992.10
- ⑤ DIFFERENCES BETWEEN THE U.S. AND JAPAN IN SCHOOL HEALTH SERVICES
“Hitotsubashi Journal of Social Studies” Vol. 24, No. 1, 1992.8
- ⑥ COMPARISON BETWEEN THE UNITED STATES AND JAPAN IN SCHOOL NURSING : Some Findings from a Survey of School Nurses in both Countries
“Hitotsubashi Journal of Social Studies” Vol. 24, No. 2, 1993.3
- ⑦「アメリカ合衆国の保健教育動向」『学校保健研究』1993.8 (投稿中)